

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	まんてん東淀川西淡路教室		
○保護者評価実施期間	令和8年1月27日 ～ 令和8年2月7日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1	(回答者数) 1
○従業者評価実施期間	令和8年1月27日 ～ 令和8年2月7日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10名	(回答者数) 10名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月28日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個々の特性に合わせたSSTプログラムを考え、取り組んでいる。	・個別指導計画をふまえ、本人の特性やペースを考え、日々のSSTプログラムを計画している。 ・遊びの中に取り組み、子どもたちが楽しみながらできるように工夫している。	・支援が偏ったり、マンネリ化しないように立案者は他のスタッフのアイデアや意見を聞ける機会を定期的に設けている。
2	こどもたちに適切な支援ができるように、定期的に研修を行っている。	・最低月一回は行うようにしている。 ・様々な視点から研修ができるように、研修の内容を職員全員が順番に考えている。	・職員のスキルが更に伸ばせるように、外部の研修にも積極的に参加していく。

3	利用者、保護者とのやり取りを密に行い、必要に応じて相談支援事業所と連携を取っている。	・保護者や利用者、そのほかの関係機関などから上がってきた相談や意見などは、他の職員にも共有し適切な支援ができるように心がけている。 また必要に応じて増段支援事業所とも情報を共有している。	・今後もよりいっそう保護者や利用者が相談しやすいよう、定期的に場を作ったり、様子に気付けるよう配慮していく。 ・また関係機関とも協力しやすいように、コミュニケーションを強化していく。
---	--	--	--

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・情報発信	・現在SNS等、情報を発信するツールを使用していない	・職員が発信しやすいSNSを検討し、取り入れていく
2	・地域との交流が少ない	・日々の支援に追われ、外部との交流の準備や計画する時間がたりない。	・準備が少なくて済み、日々の活動のなかで組み込めるボランティアなど検討し計画に入れていく。
3			